



だより



R8.9.23 Vol.20

お陰様で

少し前、知り合いのお子さんが進路に悩んでいると聞き、若い頃の自分を思い出しました。思い通りにならない現実に苛立ち、親に横着を言ったりもしていました。教員になり、体育主任として指導していた頃も、「自分の力で!」とやはり「自分が」という思いが強く肩に力が入っていました。

しかし歳を重ねる中で、「世界は誰かの仕事でできている」という言葉が実感を伴って胸に落ちるようになりました。演劇の舞台に立った経験はその象徴でした。主役が輝くのは脇役がいるから。舞台が成立するのは演出、照明、音響、会場スタッフ…多くの人の力が重なっているからです。日常もそして学校も同じだと気づきました。

未熟だった私は、ようやく「お陰様で」という言葉の意味を理解し始めています。(おそっ!)

若い人たちはまっすぐで、努力を惜しまず、本当に輝いています。知り合いのお子さんにもまさにそんな子です。だからこそ、そんな時こそ、少し立ち止まって考えてみてほしいのです。「自分は誰のお陰でここに立てているのか」つい最近まで気づいていなかった私が言うのも恐縮ですが…(反省)

アップデートして下さい

研修の時間、デジタルの利活用について「校長先生もアップデートしてくださいよ」とある職員にご助言いただきました。(笑)

そうなんです。私たちが教員になった頃に比べると社会の状況も子育ての在り方も教育に対する考え方も大きく変わっています。特にICT 関係は違う世界に來たのか?と感じるほどの進捗ぶりです。自身のアップデートができなければ、利活用などできません。

しかしアップデートが全てではないとも思います。今や AI が映画を製作する時代です。が、その AI を活用する映画監督は「人に想像力がなければ作品は生まれない。」と語っています。時代に応じてアップデートをするところ、その流れに惑わされず見極めるところ。そこをしっかりと監督するのが、映画監督ならぬ松蔭校長の務めだと思っております。(言い訳です。笑)

四方山話松蔭 ver. 其の二十(挨拶に思う)

「おはようございます!」大事にしたい朝の言葉です。子供たちの自己評価は「自分たちはしっかり挨拶ができています」という割合が高かったですが、「そうかなあ?」と思う場面がしばしば。挨拶は言ったかどうかではなく、相手が挨拶として受け取れたか?だと思のです。松蔭っ子たちに挨拶をしていると、その横を地域の子供たちも登校していきます。挨拶を返す子もいますが、中には素通りしていく子もいます。呼び止めて指導しようか?と思うこともありますがそこはぐっとこらえています。(笑)「思春期だから」「年頃だから」よく言われることですが、それだけで済ませてはいけないと思っています。物の分別がついてくる年頃だからこそ自分の行動を相手はどう思うか考える力を育てる必要があるのではないのでしょうか。

私が子供の頃の先生方の多くは戦前教育を受けた親に育てられた世代でした。その世代の方たちが我々の指導に当たったわけですから。挨拶はもちろんのこと、気を付けの姿勢、行進の仕方まで、今振り返ると「軍隊か?」と思ってしまうような指導もありました。自分が教師になった時、そこへの反発はありました。が、長く教育に携わる中で、必要なものもあるんじゃないか?そのことも少しずつわかってきました。自分を律することの大切さです。

うちは商売をしていました。朝早くから夜遅くまで働く親の姿を見ていたので自分の行動が店の信用を損なうようなことはしたくないという思いが少しずつ育ちました。「商売人の子供が挨拶もできないなんてダメだろ?」それが私なりの自律でした。決して私の経験を全てにあてはめたいわけではありません。

ただやはり、小さな頃は「挨拶はするものです。」としっかり躰てほしいです。ある程度の年齢になったのなら「相手の気持ちを考えよう。」と伝えてほしいです。繰り返しますが、挨拶は人や社会とつながる第一歩です。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。